

# 番組審議会 第647回

開催日 令和3年3月15日（月）

## ■委員の出席

委員総数 10名  
出席委員数 10名

### 出席者

委員長	音 好 宏	
副委員長	中 江 有 里	
委員	江 澤 佐知子	尾 縣 貢
	萱 野 稔 人	喜田村 洋 一
	佐 藤 智 恵	長 嶋 有
	藤 原 帰 一	水無田 気 流

TBSテレビ	佐々木 社 長
	渡 辺 常 務
	伊佐野 常 務
	岩 田 取締役
	瀬戸口 編成局長
	竹 内 報道局長
	米 田 報道局総合編集センター長
	山 岡 総合演出（報道局統括編集長）
	佐 藤 番組プロデューサー（報道局外信部）
	中 山 編成考査局長
	鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長
	天 野 番組審議会事務局長

## ■議事概要

### 1. 審議事項

(1) 東日本大震災10年プロジェクト  
「つなぐ、つながるSP」 3月6日(土)放送

(2) その他

### 2. 報告事項

(1) 2021年度上期の編成方針

### 3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声について

(2) 次回審議会の議題及び日程について

## 【委員の主な意見】

(東日本大震災10年プロジェクト「つなぐ、つながるSP」について)

□「黒い津波」など、ファンクショナルな問題と、被災した取材対象者・向き合う取材者の、エモーショナルな問題のバランスが、非常によくできていた。少し注文をつければ、新型コロナという異常事態に、人々がどう対応してきたのか、若干踏み込んでも良かったのではないか。

□戦争体験についての報道と重なる課題だが、生々しいばかりだと心を傷つけるし、復興ばかりに光を当てるとリアリティを失う、非常に難しいジレンマがある。これを大変丁寧に捉え、震災の厳しい現実と、震災後の営みを、決まった筋書きのような安心感を与えることなく描いていた。

□全体的に非常に優れた番組だが、取材される側が顔を出してプライベートをさらけ出す一方、顔を出さないグループであるGReeeeNの曲を使うのは、納得がいかないと思った。

□一人の被災者の10年、一人の報道関係者の10年、一つの場所の10年を、定点観測で伝えたこと。民放・NHK、そして一般の方など、垣根を越えて映像を集めたこと。JNNの特別番組にふさわしい内容だった。

□原発が非常に危険だとして、テレビ局が社員に退避命令を出した話があった。国が地元はまだ情報を伝えていない段階で、報道機関に携わる者として、これを報道するにはどうしたらいいのか、常に考えなければいけないということを、考えさせられた。

□震災報道を通じて、テレビに何ができるのかという問いに向き合い、番組を通じてテレビ自身が探るという姿勢に、非常に好感が持てた。また局の垣根を越えて映像を集めた点では、更に発展させて、災害研究のためにも、震災アーカイブを作ることができるのではないか。

□辛い過去を振り返るだけでなく、負けずに困難を乗り越えると、前進していけることを教えてくれた。コロナ禍で苦しんでいる人々にとっても、強い励ましになったのではないか。過度の演出や過激なコメントもなく、真実を伝えてくれた良質の番組だった。

□全ての人がああ時のことを覚えている、それぞれが伝えたいことがある。そういったメッセージ性を具現化して、未来への決意を新たにする形につなげてくれる番組だった。

□民放とNHKが連携して防災プロジェクトを行った。非常に画期的で、映像アーカイブの利活用を意識し、放送メディアのある種の可能性を感じさせるものだった。大規模自然災害など人命に関わる有事においては、報道機関同士が放送インフラを活用して協力体制をとることは、非常に意味があることだと思う。

□再現ドラマの部分が、もったいない気がした。実在の人物がそこにいて、語るができるのに、どうしてわざわざ再現するのか。言葉と写真、イメージ映像で表現した方が良かったのではないか。

□10年たったから話が出ることもあるように、20年たって、30年たってからでなければ話せないことも、それぞれの方にあると思う。そういうものを記録して放映し続けることは、放送局の役割だと思うので、丁寧に続けて頂きたい

\*TBSでは、番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。（TBSテレビ番組審議会事務局）